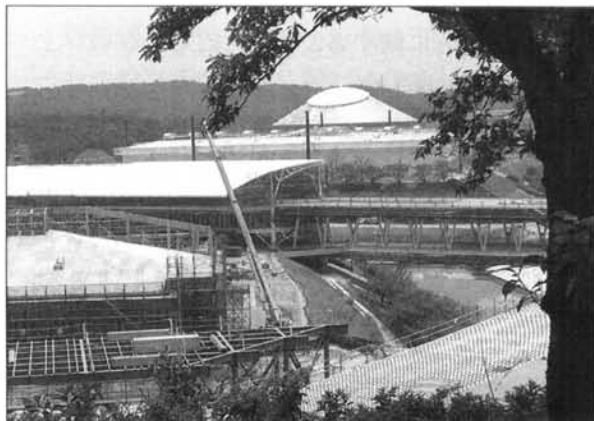


岐阜工業高等専門学校

第7号(平成16年12月20日発行)

編集：教育後援会事務局

教育後援会通信「ちから」



保護者見学会（2005年日本国際博覧会会場建設現場）



昼食会（長島なばの里）

保護者見学会に参加して

教育後援会副会長 寺 町 勝 弘



今回、初めて保護者見学会に参加させていただきました。当日驚いたことは、父親の参加者が何人かいらしかったことです。日頃、仕事で忙しい中で行事に参加いただけたことをありがたく思います。

さて、見学会の日程ですが、午前中は岐阜高専卒業生の方3名に大変お忙しい中、時間をとっていただき、来年開催される愛・地球博の説明を聞き、高台から建設中の会場を見させていただきました。このような世界的なプロジェクトの中に本校の卒業生の方々が携わっておられることは、非常に誇らしいことであり、またその方々の今までの努力に敬意を表したく思います。

そして午後からは、なばの里に移動し昼食を兼ねて各テーブルに先生方に一人ずつ着いていただき懇親をしていただきました。私のテーブルでも子供さんのお話や後援会へのご要望等と有意義にお話することができました。その後きれいな花々を鑑賞して本校へと帰ってきました。とても充実した一日でした。見学会のなかで特に印象に残ったことは、車中で各学科の先生より進学・就職についていろいろお話をしてくださったことです。状況がよく理解できました。

終わりに、保護者見学会に多数の後援会会員の方々にご参加いただきたいと思います。参加を一度もしたことのない方とくにお勧めいたします。

「学校はいま？」 一時の話題、課題を探る

保護者からの要望・意見の吸い上げシステムについて (お知らせ)

このたび、本校では保護者の皆様から本校の教育、学校運営等に関するご要望、ご意見を吸い上げるシステムとして下記のとおり意見箱を設置することにいたしました。

意見箱の開封は、校長及び事務部長が2ヵ月に1回程度行い、内容に応じ学内関係委員会で検討または直ちに改善できる事項につきましては、担当事務部署において改善を図ることとしています。ご活用いただきますようお願いいたします。(別紙に記載)

地区懇談会

地区懇談会に参加して

岐阜地区理事 桑 原 正 美

岐阜地区は学校を会場に、11月7日(日)保護者懇談会が開催されました。出席者数は1・2年の親さんが3割程度、高学年は僅かでした。

当地区は名鉄揖斐・市内線及び樽見鉄道を利用している自宅通学者が多い為、存続問題について、どのようになるのかが心配です。学校側から、沿線自治体による対策協議会と協力連携して昨年度は署名活動に高専も参加したとの報告がありました。また、最近の詳しい情報も話して頂けました。保護者からはできることがあれば協力したいという発言がありました。

分科会では、1年の生徒で専門教科が難しくて理解できず、先生に聞くのもためらっている、と言われる親さんに対して、別の親さんから、学校側が専攻科生で家庭教師をしたい学生の紹介を学内に掲示してもらえるといいのでは、という提案がありました。

進路に関しては、先生から具体的な話をして頂きました。高専の学生は、社会に通用する技術者になることを目標として、各自将来の夢や希望をもって欲しい。勉学や進路で悩んだ時、その目標に向かい、今何をしたらよいかを考えて学生生活を過ごせるから、と話されました。

懇談会に参加することで、先生方や保護者の方から直接、アドバイスや情報を得られることができました。親は我が子を見守り、支える役割ですので、いつでも相談にのれるような親子関係でいたいと思いました。

西濃地区保護者懇談会に参加して

西濃地区理事 小 野 彰

11月14日（日）西濃地区の保護者懇談会を学校にて開催いたしました。

100名以上の保護者の方に参加していただき、分科会においても意見が活発に出されたようで予定時間を過ぎてしまったところもあるほどでした。

授業内容が他の学校より進んでいるが大丈夫なのか？学年が上がってレポートなどが増えたがどうなのか？学生生活におけるアルバイトは有意義なものなのか？部活は？研修旅行は？……という学生生活における疑問から、卒業研究はどのようなものか？仮進級への対応は？就職活動はいつ頃から？進学・就職への学校推薦は？インターンシップとはどのようなもの？……という進路に関する疑問、果ては、キャドってどうするもの？オフィスアワーとは？という子供の口から聞いてはいたけどよくわからないから知ってみたかったという些細な疑問にまで、先生方からは質問一つずつに対しての丁寧な回答を、また3～5年の親さんからは貴重な経験談などを聞かせていただくことが出来ました。

私自身、心配事や疑問に思っていた事から開放されてほっとしている所へ、1～2年の親さんから「今日参加して、何か徳をしたみたい」という声が聞こえ、本当にその通りだとその言葉がとても印象に残っています。

また、今回役員をやらせていただいた事により、交友関係がぐっと広がり、沢山の方に様々な事を教えていただき、とても有意義な時間を過ごすことが出来たように思います。

最後になりましたが、先生方、役員の皆様、ご協力有り難うございました。



西濃地区全体会（校務報告）



M科分科会

退任にあたって

バスケットボール部顧問として

一般科目（数学） 川 本 正 則

中学時代からバスケットボール競技に取り組み、教員になって40年間（本校では37年間）クラブ顧問として学生を指導してきました。当時高専チームは練習試合の相手が見つからず、部員の出身中学と試合をするなど、のんびりとしたチームの雰囲気です。部員数50名（1年生は32名）以上の大所帯。高専に勤務した4月に校長・事務部長・主事より「全国大会を目指し優勝を!!」といわれたことと目にしているクラブの状態を考えるとチームを強くするか、みんなで楽しむ部活とするか戸惑いもありましたが、全国大会優勝を目指して練習開始。1年もたたぬうちに部員は激減しましたが、残った学生はやる気のある部員で少数精鋭で練習成果が上がり、5年目で東海大会優勝、10年目で全国大会で優勝することができました。

東海大会優勝 18回

全国大会優勝 1回、準優勝 1回、3位入賞 4回

今の部員が新しい顧問をむかえ、さらなる成果を積み上げてくれることを願っています。

岐阜高専を去るにあたって

機械工学科 橋 浦 正 史

このたび定年退職することになりました。創立直後の昭和42年に本校の機械工学科に赴任してから38年になります。

伊吹山の夜間登山、谷汲までの強歩大会、揖斐高原でのスキー訓練、学科マスコットの飾られた体育大会、高専祭、冬の駅伝大会などの行事が印象に残っています。とくに高専祭における本校初の校外コンサート開催は強い印象があります。クラブ活動では、バレーボール部、写真部、それからバドミントン部の顧問を担当しました。バレーボール部における全国高専大会優勝、写真部の校外展開催と全国高校総合文化祭への連続出品、バドミントン部の東海大会での数々の優勝などが心に残りました。

学校週五日制及び第4・5学年への単位制の導入時には、教育後援会の役員並びに保護者の方々にご理解とご支援をいただきました。当時、教務主事をしていた者として心強く思いました。

これまでの教育後援会のご支援に感謝し、益々のご発展を祈念いたします。

独で心臓移植成功

募金のご協力有り難う御座いました

平成3年3月卒 藤田 誠一

お礼の言葉

私が「拡張型心筋症」だとわかったのが、次女が生まれて間もないころ、5年前のことです。その時は1ヵ月半ほどで退院し、昨年までは普通に生活していました。「拡張型心筋症」という病気を初めて聞いたものの、どういう病気なのかなんて全く考えもしませんでした。

当初から仕事はとめられており、健康そうに見えるけど身体の内部を患っているという状態でした。いわゆる「内部障害者」です。周りから見れば仕事もせず、何をブラブラしているんだと思われるていたと思います。家族のために何もできない自分がもどかしくもあり、何もせず1日1日が過ぎていくのがとてもイヤでした。

そんな生活が続き、ちょうど1年ほど前から再び心不全の症状が出始め、寝るのも苦しい状態になり入院しました。自分の中では以前と同様、しばらくしたら退院して元の生活に戻れるものだと思っていました。しかし、そこで「退院も難しいでしょう、退院したとしてもすぐ入院することになります」と医師から告げられました。もう私の心臓は限界に近かったのです。いつ止まってもおかしくない状態でした。医師からは助かるには「心臓移植しかない」と宣告されました。日本での心臓移植はまだほとんど例がなかったので日本での移植が非常に厳しいことは知っていましたが、自分はどうすべきか、日本で移植を待つか、それともあきらめるか…。

そんなとき、父が主治医に言ってくれました。「ワシの心臓をやってください。」この言葉、絶対に忘れることができません。年齢はもちろん、血液型も違うため無理なことはわかっているのに、自分の息子のためにそう言ってくれた気持ちが本当にうれしかった。

この言葉を聞いて、自分の親より先には死ねない、それに自分の家族のためにも死ねないと思い、心臓移植を受けることを決意しました。日本で移植を待つことを考えましたが、家族が情報を集めてくれたおかげで、今回ドイツでお世話になった南先生と出会うことができました。

昨年末にでもすぐに、渡独の予定でしたが、そのころもう心臓は限界ぎりぎりでした。そして補助人工心臓の装着、これがなかったら今の私はありません。

家内から聞いた話ですが、医師から「いい選択をしましたね。」と言ってくださったそうです。また補助人工心臓を装着した状態でドイツへの渡航が初めてだったこともあり、それが可能かどうか病院関係者、航空会社等との折衝等、渡航までにはさまざまなハードルがありました。そして、今回の渡独に携わってくださったみなさま、そして救う会をはじめとしてご支援・激励くださったみなさまのおかげで、ドイツへの渡航移植が実現し、心臓移植を受け、元気な身体になることができました。

私がこの病気になって、たった5年です。もっと長い闘病生活をおくられている方もいらっしゃいます。そんな方達のためにももっと日本での移植医療が発展していくことを願うばかりです。

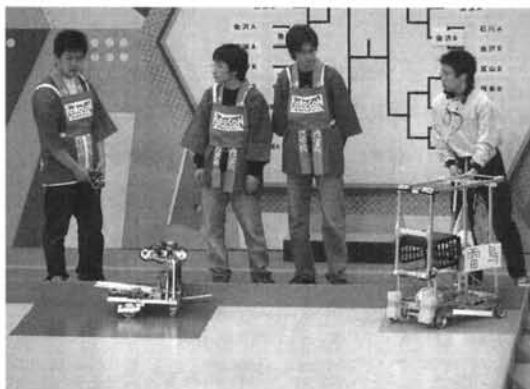
最後になりましたが、ドナーとなってくださった方のご冥福をお祈りするとともに、今回のドイツ渡航移植にあたり、岐阜高専の学生をはじめご父兄の皆様にはご支援・激励くださり本当にありがとうございました。これからはずっと家族で生活できることに心から感謝しています。本当にありがとうございました。

お 知 ら せ

◎ロボコン報告

ザンネーン

去る11月7日に鈴鹿高専にて開催されましたロボットコンテスト2004東海北陸大会は、本校学生の健闘空しく、今年も残念な結果となりました。来年こそ期待しましょう。



鈴鹿高専にて

◎寮生スキー研修

平成17年1月15日(土) 行き先 めいほうスキー場

◎吹奏楽部第38回定期演奏会

平成17年1月15日(土)13時～ 場所：羽島市文化センター (058-393-2231)

入場料：前売券300円 当日券400円 お問合せは羽渕教官まで(058-320-1355)

猛練習の成果を是非聴きにきて下さい。

◎第38回卒業式・第9回専攻科修了式の举行

平成17年3月18日(金) 10時～

場所 岐阜工業高等専門学校第一体育館

◎教育後援会役員会

平成17年3月21日(土) 10時30分～13時 (後日連絡いたします)

◎第43回入学式・第11回専攻科入学式の举行

(本 科) 平成17年4月5日(火) 9時20分～ 本校：第一体育館

(専攻科) 平成17年4月5日(火) 13時30分～ 本校：大会議室

■平成17年度教育後援会総会■

日時 平成17年4月5日(火) 10時～

場所 岐阜工業高等専門学校第一体育館

昨年より1人でも多くの方のご出席をお待ちしております。

発行：岐阜工業高等専門学校 教育後援会事務局 TEL・FAX(058) 323-8752
〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236-2 e-mail：gnctk@yahoo.co.jp